

ヤマト福祉財団 NEWS

ヤマトグループ賛助会員向けニュース(季刊)

発行部数12万部・非売品

YAMATO WELFARE FOUNDATION

No.31

7月20日発行 2011 Summer

小さくても、
確かな一歩を
踏み出しています

被災地
からの
報告



東日本大震災
生活・産業基盤
復興再生
募金
ヤマト福祉財団

待ちに待ったクロネコメール便配達再開、仮設住宅の前を走ります。(福島県南相馬市鹿島区 NPO法人あさがのメイトさん)

平成23年度
障がい者福祉助成金の贈呈式を
全国各地で行いました p06

私たちの賛助会費が活かされています
■障がい者福祉助成金 助成先レポートVol.11(仙台市)
利用者、職員が一丸となって p10
震災に負けず工賃アップに挑む

この街で一緒に生きていく 障がい者のクロネコメール便配達
始めて4ヶ月。 p12
見えてきたものがありました。

スワン工舎 卒業生訪問8
巧みなハンドリフトの操作で荷さばきも縦横無尽。 p14

確かな一歩を踏み出しています

東日本大震災では多くの施設・事業所が深刻なダメージを受けています。建物や設備に甚大な被害を受けた施設、他の土地に移らざるを得ない利用者さんや職員がいる所、依然として仕事再開の目処が立たない所など、問題はさまざまです。「それでもいまでも最善の何かを...」。

突き動かされるような思いで日々活動されているみなさんの近況を報告します。

NPO法人
「あさがお」



「震災前、ここからは海が見えなかったんです」あさがおの配達区域は津波で風景が一変してしまいました



「ここも、私の配達担当区域でした」と西畑孝子さん



工賃を確保するために「販売できるところ」を求めて東京へ

「あさがお」

手作り豆腐や野菜などを 復興イベントで販売

津波により2/3が壊滅状態となった福島県南相馬市鹿島区にあるNPO法人「あさがお」。ここは、福島第一原発から約31km離れているため避難圏外ですが、状況が厳しく当初は郡山市に移転の話も出ていました。

あさがおの目玉商品は「青ばた豆」を使った味噌や豆腐です。しかし、青ばた豆を育てていた畑もこの震災で使えなくなりました。青ばた豆は、地元で有機農業をされている方の協力を得て定着してきた商品。豆腐を作る技術も5年の年月を費やしてやっと実現できたのです。そのすべてが震災でゼロに...

「それでもこのまま鹿島区に留まる決心です。故郷に育てられて私たちはここまでできたのですから」と理事長の西さん。

昨年度はクロネコメール便の売上が約300万円あり、これに商品の販売などを加え、全体の売上は2000万円を超えていました。しかし、震災により商品を卸していた道の駅やスーパーが開店できず、工賃確保の目処が立たない状況です。

そんな時、交通会館有楽町マルシェで行う復興イベント「買い控えを吹き飛ばせ！福島・茨城の農家を応援しよう」で野菜などの販売を行う話が出ました。早速、倉庫に残っていた豆を使って豆腐を作

り、野菜を持って復興イベントに参加しました。

「4月22日から行われた復興イベントでの1日の売上が約10万円。これを30回行えば300万円です。震災でなくなった分の売り上げを確保していくひとつの手段となると思いました」。

クロネコメール便の 配達を再開しました

配達を再開しました

あさがおでは避難所へのお弁当作り、基板組立の下請け作業なども開始しています。そしてもうひとつ、明るい話題があります。クロネコメール便配達の再開です。

「私たちが担当していたエリアは、津波で甚大な被害を受けましたが、以前に配達していたエリアの配達のお話がきました。まだ数は少ないですが、私たちにとってこれは大きな一歩です」と理事長の西さん。

あさがおでは、利用者さんのためにも「ここ」で負けてたまるか」という気持ちで、工賃確保への努力を続けています。

NPO法人「あさがお」

理事長 西みよ子さん



NPO法人
「ほっと悠」



少しずつですが、作業も再開しました

CIL
たすけっと



仙台市内にある事務所が中心拠点、宮城県全域をサポートできる体制を整えたい



何でも相談し合える場所“集いの場”をオープン



CIL たすけっとに集まるボランティアスタッフのみなさん



保管していた青ばた豆から良質なものを選別し、豆腐を製造

「クロネコメール便は自分の仕事、再開して良かった」と大畑隆之さん



「冊数が少ないんです、でも配達できてうれしい」と荒浩さん



NPO法人「ほっと悠」
理事長 村田純子さん

「ほっと悠」 まずは、みんなの 居場所を取り戻すこと

同じ南相馬市でも福島第一原発から22〜23km圏内の緊急避難準備地域に入ったNPO法人『ほっと悠』の状況は、より深刻です。震災と原発事故による避難で、利用者さんも職員もばらばらに離れてしまいました。

実は、ほっと悠は今年3月の時点で36,774円の平均工賃を達成し、就労継続支援B型事業所として福島県で第一位に。

「かつてパワーアップセミナーに参加した時、ヤマト福祉財団の小倉初代理事長とお会いし、工賃3万円を実現すると約束をしました。その目標をやっと達成できたぞ、とみんなで喜んでいたら矢先なのです」と村田さん。しかし、その売上を支えていたクロネコメール便配達、食堂、病院内の売店&カフェ、お弁当屋など、すべてが震災でストップしてしまいました。

「いまは、まず何とかみんなの居場所を取り戻そうと『相談支援センター ほっと悠』内に『集いの場』

をオープンしました。ここで下請け作業などを徐々に再開していきます。また、7月1日から『就労支援センター ほっと悠 Ms』が再会しました。

「CIL たすけっと」 いまは物資より 人手が必要

震度6弱の地震を記録した宮城県仙台市太白区にある『CIL たすけっと』は、震災の翌日から被災者の訪問を始めました。

「在宅障がい者の安否確認を兼ねて、足りない物資をお届けするために、県下70カ所を走りまわりました」とスタッフの菊池さん。

しかし、震災から時間が経ち、求められるものも変化しています。

「CIL たすけっと」
代表の及川智さん（写真左）と菊池正明さん



例えば、仮設住宅に入る準備などで家族は忙しく、つきっきりで利用者さんを見てあげることができません。

「いまは物より人手です。利用者さんの側で、しっかりと声を聞き、応えられる体制を何とか整えたいと考えています」と代表の及川さん。仙台市を中心に宮城県全域をサポートできるように拠点の拡大に力を注いでいます。

被災障害施設復興支援で 大物産展を開催しました

被災地の仲間を応援しようとして動き出したのが、NPO法人「町田作業所連絡会（通称：まちされん）」です。まちされんの天野さんは、震災直後に救援物資を持って被災地を訪ねました。

「そのときに、はらから福祉会の武田理事長から売場所も買う人も被災にあつて、商品が売れない、減ってしまった工賃を元に戻すためにも障がい者の作った商品を販売してほしいと要望がありました」と天野さんは話します。そして4月30日、東京都町田市で東日本

NPO法人「町田作業所連絡会」
天野貴彦さん



被災地の作業所で製造する商品、東北の地元名産品が並ぶ

大震災による被災障害者施設復興支援キャンペーン『東北地方大物産展in町田』を企画、開催しました。

東北から商品を運んできた、はらから福祉会の高橋さんは「余震が続く中、水道の復旧が遅れ豆腐作りは大変でしたが、なんとかこのイベントに間に合わせることができました。私たちの他にもあんなるホームさん、すずかけの里さん、ポツケの森さんなどが商品を出しています。今回の震災に負けずに新しいお客様、取引先を少しでも増やして工賃確保にがんばりたい」と話します。

まちされんでは、この東北地方大物産展にあわせてイベント用の旗を作成しました。この旗には、次に開催される場所にリレーできるように、まちされんの名前はいれていません。旗には大きく『がんば

スワンカフェ銀座店



スワンカフェ銀座店
シェフ 鈴木敦士さん

被災地の農家から直接 仕入れた野菜を販売

いま「スワンカフェ銀座店」の店頭で、被災地の野菜の販売が行われています。現在取り扱っている

のは、茨城県産のトマト、キュウリ、ワサビなど。これはシェフの鈴木さんのアイデアです。

「12年前、実家の近くで東海村臨界事故が発生しました。この時、近隣農家が風評被害で大変だと両親から聞きました。まだかけ出しの料理人だった私には何もできませんでした。今回の災害で、スワンカフェの取引先の



被災地応援のノボリを掲げ、店頭で野菜を販売

農家の中に風評被害にあわれている方がいらっしやいます。日頃お世話になっているみなさんのお役に少しでも立つことができれば、と考えました。

震災直後、（株）スワンでは倉庫に保管されていた4万7千食ほどの焼き菓子などを被災地に送りました。鈴木さんはこの話を聞き「スワンカフェとしても何かできないだろうか」と動き出したのです。

被災地応援 ランチプレートも開始

鈴木さんは風評被害にあう取引先の農家を訪ね歩き、野菜を自らの目で確認して、安心できる食材を仕入れています。

そして被災地の食材を使って「被災地応援ランチプレート」も考案しました。

「食材は、茨城県の野菜、宮城県の

『東日本大震災 生活・産業 基盤復興再生募金』について



2011年3月11日に発生した東日本大震災では
多くの方々が被災されました。

謹んでお見舞いとお悔やみを申し上げます。

このたびの大震災では、生活・産業基盤の損傷、とりわけ地域を支えてきた水産業・農業の被害はかつてない甚大なものとなりました。被災者の方々を持続的に支援していくには、失われた生活基盤を回復し、産業を再生させ、雇用を生み出していく必要があります。それによって障がいのある方々や高齢者も含めた地域社会が復興再生していくものと考えます。そのためには、この震災で浮かび上がった諸課題を見据えた大胆な発想と革新的行動、そして、これを支える資金の投入が不可欠であると考えました。

こうした認識のもと、公益財団法人の認定を受けた財団として「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」を開始することを決定し、今回「指定寄附金」として財務大臣から指定いただくに至りました。募金の趣旨と意義を多くの方々にご理解いただき、幅広いご協力をお願いいたします。

■募集について

- (1)募金責任者：公益財団法人ヤマト福祉財団(寄附金を受け付け、外部有識者による東日本大震災復興支援選考委員会を設置して寄附先・助成先を決定する)
- (2)募集対象：個人、団体、企業等であって限定しない
- (3)寄附金の募集を行う場合の区域内の範囲：全国
- (4)目標額：300億円
- (5)寄附金の募集期間：平成23年6月24日から平成24年6月30日(ホームページでの詳細のご案内・口座開設は平成23年7月1日から)
- (6)寄附方法：寄附金は銀行振込により所定口座に送金する

■助成について

- (1)助成対象者：東日本大震災による被災地の生活基盤の復興と水産業・農業等産業基盤の再生支援を行う地方公共団体等
- (2)助成対象事業：東日本大震災による被災地の生活基盤の復興と水産業・農業等産業基盤の再生支援を目的とした事業等全般等
- (3)助成金額：1事業への助成額は原則として1億円以上、20億円を限度とする
- (4)助成申請：所定の申請書に必要事項を記入のうえ、復興・再生計画書、事業の組織図、工程表、団体規約、地方自治体から補助金を受けている場合はそれを証明する書類等を添えて、公益財団法人ヤマト福祉財団に申請する
- (5)活動の報告等：助成を受けた団体は公益財団法人ヤマト福祉財団に活動実績・助成金使途等の報告書を提出する
助成を受けた団体の団体名、助成金額、活動概要等について、公益財団法人ヤマト福祉財団ホームページで公表する
- (6)助成金の交付等：公益財団法人ヤマト福祉財団が設置する第三者委員会「東日本大震災復興支援選考委員会」が寄附・助成を決定する
- (7)第1次応募期間と助成決定時期(第5次まで予定)：
○第1次応募期間…2011(平成23)年7月1日(金)～同年7月31日(日)
○助成決定時期…2011(平成23)年8月下旬(予定)

※詳細につきましては

ヤマト福祉財団の特設サイト『東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金』(<http://www.yamatowf-saisei.jp/>)をご参照ください。

■お問い合わせ

公益財団法人ヤマト福祉財団
「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」担当
フリーダイヤル 0120-801024



るぞ』の文字が。『がんばろう』ではなく『がんばるぞ』としたこの言葉には「応援いただくだけでなく、被災地の人間自らの手で復興を目指す」そんな被災地のみなさんの決意が込められています。



大盛況の「がんばろう、ニッポン☆がんばるぞ!東北」



ランチ限定『東北・茨城がんばっ!プレート』
※季節の旬の食材を使用するため、季節によりメニューは変わります。

こしひかり、岩手県
の十穀米、福島県か
らはエゴマ豚など
です。銀座みつばち
プロジェクトで参
加している耕作放
棄地で採れるジャ
ガイモなども使
たいと思います。器
もこだわり、茨城
の笠間焼きを使
いました。このメ
ニューは年内まで
続けていく予定です。

こうした野菜の販売、ランチプレートを被災地を応援するものであることをお客様に伝えられるように、今回交流が広がった肉屋さんや農家のみなさん、岩手県のアナテナショップなどから、被災地応援のノボリを借りて店頭に掲げています。
「人と人とのつながりが、復興への大きな力となっていくと信じています」と鈴木さん。これら売り上げ金の一部は、『東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金』に募金します。

平成23年度

ヤマト福祉財団では、障がい者の自立と社会参加、工賃アップ、生産性アップに直結する事業などに対し、毎年「障がい者福祉助成金」を贈呈しています。

今年は858件の応募があり、その中から75件・計6,800万円の助成を決定しました。

賛助会員のご協力や労働組合のカンパ活動を通して集められた、みなさまのあたたかい気持ちを
お届けしています。

支社

北海道支社

ヤマト福祉財団 100万円を寄付

さくら（島野祐也理事
施設では知的障害者

長）が運営する障害者就労支援施設さくらんぼ（勇払）に21日、ヤマト福祉財団（東京）から、シイタケ栽培用ビニールハウスの建設費100万円が贈られ

ら21人が饪やペットボ
トルの分別作業などを
行っている。新たにシ
イタケ栽培を始め、本
年度中に利用者をさら
に25人増やす予定だ。
この日はヤマト運輸

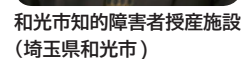
内では本年度、5施設・団体に計470万円を助成する。

(山田崇史)

江口主管支店長(左)から贈呈書を手渡される施設利用者

の江口真一・千歳主管
支店長が施設を訪れ、
利用者に贈品書を手渡
した。島野理事長は今
回の機会をより多くの
利用者と生かしたい」と
感謝していた。

同財団は全国で障害
者の自立支援のための
寄付を行っている。道



一瀬 啓志さん

『和光市知的障害者授産施設』では、パンやクッキーの製造、喫茶店やアンテナショップでの販売、公園清掃作業、自主生産作業などに加え、昨年よりブルーベリー果樹園をスタートしました。「草地だった場所を農地に変えるのに、助成金で購入した耕耘機が大活躍しました」と一瀬さん。栽培するブルーベリーは、そのまま販売するだけではなくパンやクッキーづくりにも活用する予定です。「みんなで美味しいブルーベリーを栽培し、工賃アップを実現していきたい」と夢は広がります。

のびのび作業所 エコ&
フーズ(東京都江東区)
施設長 **簗田 健二**さん



全国の施設、地元企業と連携し
消費者ニーズを捉えた
セット販売を



社会福祉法人光明会
(千葉県八街市)
常務理事 内藤 晃さん

「多様な消費者ニーズに最適な商品づくりを一施設だけで完全に行うのは難しい」と内藤さん。そこで、複数施設が協力し、各消費者ニーズに合わせて商品を選択・セット販売する「ことを考え、そのための調査・研究を開始しました。例えば結婚式の引き出物、素材にこだわる食品ギフト、エコ商品セットなどを想定。これにより既存商品をより魅力的に売り出し、売上アップ、工賃アップを目指します。現在、ニーズ調査、全国の施設が参加できる仕組み、販売方法、ブランドづくりなどを民間企業と連携して進めています。

関西支社



東京支社



中国支社



北信越支社

中国新聞 2011年4月26日

**障害者支援活動
3県12団体助成
ヤマト福祉財団**

ヤマト福祉財団（東京）が、障害者支援をしている広島、山口、岡山3県の12団体に、商品作りや販売に使う機材の購入費計105万3千円を助成した。25日、広島市安佐南区のヤマト運輸広島主管支店で贈呈式があった。中区的な第一もみじ作業所や周南市の周南あけぼの園の代表ら12人に、ヤマト運輸の西出敏之中国支社長が目録を渡した。各団体は移動販売用トラックや印刷機の購入に充てる。他の助成先は次の通り。

広島自立支援センター（広島市）▽ゆめの木・わかば（福山市）▽にこにこ会（同）▽ゆうげい（竹原市）▽しかは園（岩国市）▽そのの園（美祿市）▽あつちんセンター（同）▽（同）▽ドリム・プランネット（岡山市）▽アンジオリセール（同）▽吉備の里ひな（岡山県吉備中央町）

『のびのび作業所 エコ&フーズ』には、清掃事業部、製菓製パン部、そして福祉会内の給食センター的な役割を果たす給食調理部があります。今年より多くの給食を作れるようにと厨房を拡張。助成金で回転釜と乾燥消毒器も購入し、人員も増やしました。「人が増えた分、各人の能力に応じたいろいろな職種が必要」と篠田さん。応援をいただいている八百屋さんの指導の元、青果市場に出かけ、ジャガイモの芽を取る、野菜をカットするなど、商品に付加価値をつける下請け作業を受注し、工賃アップへの工夫を続けています。

障がい者助成金
「e-ライン」へ
ヤマト福祉財団から
糸満 公益財団法人
ヤマト福祉



財団（有富慶二理事長）による障がい者福祉助成金の贈呈

式がこのほど、糸満市の沖縄ヤマト運輸会議室で開かれた。同運輸の赤嶺真一社長が社会福祉法人残波かりゆし会「就労サポートe-ライン」（読谷村座喜味）の宮城真幸副所長に100万円の目録を手渡した。

「就労サポートe-ライン」宮城副所長（右）に助成金の目録を手渡す沖縄ヤマト運輸の赤嶺社長＝糸満市

（内間弘通信員）

沖縄タイムス 2011年5月9日

沖縄支社



関東支社

四国支社



九州支社



平成23年度公益財団法人ヤマト福祉財団助成金贈呈式



県内には施設が少なく利用者希望者はまだまだたくさんいます。より環境や体制の充実を図り、一人でも多くの方の自立に役立ちたいと考えています。

新品のコンプレッサーを購入できるように申請しました。お陰で格段に作業効率が上がりました。新規受注も見込めるようになりました」と栗原さん。

『リーフ葦崎』では、民間企業から自動車部品、カメラ部品の加工を受注しています。1日に約5,000の部品を取扱っていますが、企業からさらなる要請も。「そこで新品のコンプレッサーを購入できるように申請しました。お陰で格段に作業効率が上がりました。新規受注も見込めるようになりました」と栗原さん。



特定非営利活動法人わたげの会
就労継続支援A型事業所リーフ葦崎
（山梨県葦崎市）
理事長 栗原 照雄さん

さらなる受注増に向けて
新品のコンプレッサーを
導入

平成23年度 障がい者福祉助成金決定一覧

●設備費・備品購入 ▼6,290万円

単位 (万円)

地 域	事業所名	決定額
北海道	札幌市 セルプさっぽろウェルブラザやまはな	100
	札幌市 NPO 法人地域生活支援グループ 共働友楽舎ありすくらぶ	100
	砂川市 障害者自立支援施設くるみ	100
	札幌市 札幌チャレンジド	70
	苫小牧市 就労支援施設さくらんぼ	100
山形県	山形市 エコファーム本沢	90
福島県	耶麻郡 西会津町 西会津町授産場	100
	いわき市 福祉サービス事業所かがやき	65
茨城県	水戸市 くれよん工房	98
栃木県	日光市 就労支援事業所すかい	100
群馬県	太田市 障害福祉サービス事業所ありさんち	68
	鴻巣市 あしたば第二作業所	100
埼玉県	和光市 和光市知的障害者授産施設	100
	志木市 (特非) 志木市精神保健福祉をすすめる会志木事業所	100
千葉県	成田市 NPO 法人ピーアンビシャス	100
	市川市 第1レンコンの家	77
神奈川県	大和市 障がい者自立支援たんぼば事業所	100
	横浜市 シャロームの家	100
	横浜市 カフェバーカリーぱかぶか	100
山梨県	韮崎市 就労継続支援A型事業所リーフ韮崎	95
東京都	葛飾区 (社福) 東京都知的障害者育成会 高砂福祉館	100
	杉並区 あけぼの作業所	99
	八王子市 就労継続B型夢畑	100
	江東区 のびのび作業所エコ&フーズ	100
富山県	富山市 地域共働作業所報恩の家	92
福井県	福井市 就労支援センターあおい	100
	越前市 障がい者支援センターひまわり	99
長野県	長野市 NPO 法人ホットラインながの	100
	塩尻市 塩尻市精神障害者授産施設そよ風の家	100
	上高井郡 小布施町 NATURAL GARDEN くりのみ	90
静岡県	沼津市 社会福祉法人共生会ささらぎ	85
	沼津市 社会福祉法人共生会すずらん	98
愛知県	名古屋市 港区 ユニオンワークス	63
	幡豆郡 吉良町 友国作業所	100
	名古屋市 港区 社会福祉法人名古屋ライトハウス 明和寮	100
	名古屋市 名東区 T U T T I	100
	豊橋市 社会福祉法人豊生ら・ばるか	50
三重県	伊賀市 特定非営利活動法人アイ・コラ ボレーション伊賀	100
	伊賀市 障害者福祉サービス事業所ばとな	100
滋賀県	長浜市 かばちゃんランド障害者就労センター	100
京都府	京都市 右京区 就労支援センターとも	100
	向日市 ジョブサポートセンターRINEN	100
大阪府	大阪市 浪速区 社会福祉法人ピースクラブ	100
和歌山県	日高郡 みなべ町 NPO 法人南高梅の会	100

●設備費・備品購入

単位 (万円)

地 域	事業所名	決定額
和歌山県	田辺市 エコファーム絆中芳養椎茸工場	70
	田辺市 はまゆう作業所	90
	日高郡 みなべ町 なかよし作業所	55
岡山県	加賀郡 吉備中央町 吉備の里ひなざく	72
	岡山市 東区 特定非営利活動法人ドリーム・プラネット	100
	岡山市 中区 就労継続支援A型事業所アンジョリロゼール	100
広島県	福山市 ゆめの木・わかば	60
	広島市 佐伯区 NPO 法人広島自立支援センターともに	100
	広島市 中区 第一もみじ作業所	100
	竹原市 多機能型事業所ちゅうげい	98
	福山市 にこにこ会	50
山口県	周南市 周南あけぼの園	100
	岩国市 しらかば園	100
	美祢市 障がい福祉サービス事業所 あそかの園	73
	美祢市 きっちゃんセンターともの園	100
高知県	四万十市 社会福祉法人幡多手をつなぐ 育成会福祉工場「中村」	100
福岡県	大牟田市 恵愛ワークセンター	100
	大牟田市 たんぼぼ	100
	朝倉市 こがね園	100
佐賀県	塩田町 かがやきの丘	90
長崎県	諫早市 諫早ワークス	100
大分県	宇佐市 福祉農場「安心家族」	48
	大分市 ひまわり畑	80
宮崎県	北諸県郡 三股町 えがいの里	65
沖縄県	中頭郡 読谷村 就労サポートe-ライン	100

●会議・講演会・研修 ▼155万円

地 域	団 体 名	決定額
福島県	郡山市 生活介護事業所わーくIL	70
新潟県	新潟市 中央区 NPO 法人日本ブラザー・ウィリー症候群協会	85

●出版・啓発活動 ▼155万円

地 域	団 体 名	決定額
東京都	世田谷区 社会就労センターパイ焼き窯	60
	千代田区 一般社団法人A T A R I M A E プロジェクト	95

●調査・研究・文化・スポーツ活動 ▼100万円

地 域	団 体 名	決定額
千葉県	八街市 障害者支援施設就職するなら明朗塾	100

■詳細は財団ホームページをご覧ください

ヤマト福祉財団

検索

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者福祉助成金

助成先レポート

Vol. 11

利用者、職員が一丸となって

震災に負けず工賃アップに挑む

社会福祉法人
太陽の丘福祉会
仙台ローズガーデン

3月11日14時46分。この時を境に東北では多くの物事ががらっと変わってしまいました。しかし逆境にひるまず、歩みをつづける授産施設もあります。5月上旬、その一つ「仙台ローズガーデン」取材しました。

幸運にもパニックを回避

仙台駅から北西へ車で20分。泉ヶ岳を望む高台に、大きな温室が目を引く、仙台ローズガーデンがあります。

「3月11日は職員会議が予定さ

れていた関係で、いつもより早い14時半に作業を終え、食堂にほぼ全員が集まっていました。そこにあの地震が。おかげで迅速に待避指示できたのはとても幸運でした」と震災当時の様子を語ってくださったのは、主任支援員の高橋

信也さん。幸い建物そのものにも大きな損壊はなく、天井パネルが一部、欠落した程度ですみました。2003年に開所した仙台ローズガーデンは花卉の栽培・販売を主力事業に据え、現在66名の利用者を抱えています。温室で農薬をほとんど使わずに育てたバラ、ガーベラをブーケや鉢物に加工し、直営店舗で販売するほか、冠婚葬祭にたずさわる企業や、「バラ風呂」用にホテルなどにも卸しています。

本物の味で工賃1.5倍に

しかし、1万5000円であった平均工賃のさらなる向上を図るには、花卉事業だけでは限界を感じ、2008年から新たに弁当事業に取り組みしました。利用者の給食を担当されていた主任調理人の五十嵐憲夫さんは、地元ホテルで総料理長を務めた経歴の持ち主。五十嵐さんと指導を受けた利用者としていねいに調理したお弁当は、街のお弁当屋さんとは別格の代物



仙台ローズガーデンのショップの前で



多いときは一人で100個のアレンジメントを作るときもある門脇大和さん(写真右)



ともに働くことで 見えてくるものがあるはず



● ヤマト運輸労働組合
宮城支部副執行委員長
西野沙織さん

地域を管轄する主管支店で、障がいのある方といっしょに仕事をした経験はありますが、施設への訪問は初めてでした。障がいのある方があんなに仕事をこなせるとは思っていませんでしたので正直、驚きました。「障がい者はあれができないだろう、これができないだろう」というのは単なる思いこみで、実際にはもっといろいろな現場で活躍していただくことができるのではないのでしょうか。

彼らの笑顔、気持ちのいい挨拶を見ていると、いっしょに助け合って仕事をするることによって私たち自身の働き方、お客さまへの接し方も変わってくるのではないかと思います。きっと、より明るく、思いやりのある働き方になるはずです。



利用者さんと一緒に作業をさせていただきました

※障がい者の暮らし変革塾
「第3回ヤマト福祉財団賞」を受賞した、はろから福祉会の武田理事長をリーダーに、工賃の飛躍的向上を目指すプロジェクト。参加各施設がつくる製品を相互に販売するなど新規チャネルの創出などを通じて、効果的なビジネスモデル、利用者支援の方法を具体的に開発します。最終的には平均工賃5万円への筋道を確立することが目的です。



施設長の
加賀功三さん



主任支援員の
高橋信也さん

者の自治会を3年前に結成。彼ら自身で目標を確認し合い、工賃アップに意欲的に取り組んでいます。五十嵐主任料理人もいずれば施設からの眺望を生かしたガーデンレストランの開くことを夢に描き、夏には冷凍餃子の発売に漕ぎ着けたいと考えています。

施設としても、当財団が主催する障がい者の暮らし変革塾に1期生として平成22年度より参加し、新たな展開も模索しています。

「同じ考えを持った人たちとの共同作業からは、今までにない刺激を受けています」と高橋主任。

ローズガーデンが一つになって震災のピンチをはね返し、さらに描いた夢に向かって大きな花を咲かせてくれるに違いありません。

です。しかも525→1050円という手頃な値段に加え、おかずの好き嫌いや味付けに対する要望に応えるだけでなく、仮に1000個という大量注文でも、お届け日が休日であっても断ることはありません。

地元の民生委員や見学者などに食べていただく機会を作り、そこからクチコミで受注を増やすことに成功。毎日200食ほどのオーダーを受けるようになりました。その甲斐あって、昨年度の弁当事業の売上は前年比1.5倍の1500万円、工賃も約1.5倍の平均2万3000円に到達。当財団の助成を得て購入した冷凍庫・冷蔵庫もその一助となりました。

さらに今年4月からは地元食品企業とタイアップして開発したエゴマ風味の餃子を、新商品に加え

この程度のピンチで 夢は挫けない

ようとした矢先の震災でした。

卒業式用に受注していたお弁当400食は結局、キャンセルに。母の日向けのフラワーギフトも今年はさっぱりでした。

でも「キャンセルで食材が余った分、炊き出しができました。地域の方によるこんな良かっただけ」とは良かったです」と加賀施設長。施設にあった飲料水や重油も提供しました。

地域とともにあること――震災は地域との絆



冷凍庫、冷蔵庫が増えて、大量注文に受けられるようになった



利用者が働き、地元のみなさんが楽しめるガーデンレストランを作りたいと話す五十嵐憲夫主任

をより確かなものとする機会でもあったようです。

仙台ローズガーデンが目指す工賃は7万円。震災の影響で工賃が下がってしまう恐れを伝えましたが、利用者の士気は衰えていません。仙台ローズガーデンでは利用

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

始めて4ヶ月。 見えてきたものがありました。

茨城県高萩市の市街地にある小規模作業所「はっぴい・べる」は、
メール便配達を始めてまだ4ヶ月。しかしスタートしてすぐに、東日本大震災を体験しました。
長い中断や予想外の出来事に戸惑いながらも、メール便配達を続けたメイトさんを訪ねました。



泉純一さん(右)「外に出て、いろんな人と会えるのが楽しい」。ユニホームを着ると、さあ、これから仕事が始まるんだという気持ちになるのだから。ご両親からは「記憶力がいいんだから、がんばれ」と応援されているそうです。
“はっぴい・べる” 鈴木今朝美理事長(左) 明るくて責任感も強い泉さんの自信になったら、と始めたメール便配達。その成果は、泉さんの表情にも表れてきたようです。「仕事のリーダーとして、仲間の面倒もよくみてあげています」と、泉さんの成長ぶりを喜んでいます。

思っていた以上に、
できた。

そんな「はっぴい・べる」ですが、
少しずつ明るい話題も増えていま
す。そのひとつが、始めてまだ間も
ないメール便配達で、順調に進んで
いることです。

“はっぴい・べる”は、まだできて
3年目の新しい作業所です。鈴木今
朝美理事長は、10年も前から、施設
の準備をしてきました。しかし、さ
まざまな紆余曲折を経て、やっと3
年前に、甘味処だったお店を改装し
て施設をスタートさせたのです。
その「はっぴい・べる」に文字通り
激震が襲ったのは、今年の3月11日、
東日本大震災でした。震度6強の立
つていられないほどの揺れでしたが、
幸いにして全員無事。しかし物が落
ちたり、施設の壁にはひびが入った
り。そして今、いちばん困っている
のが、雨漏りです。理事長は、移転
も考えなくてはいけないこの状況
に、頭が痛いと言います。



仕分け作業風景。職員の大森志保さん(左)が仕
分けから配達まで、サポートしています。地図に
強い泉さんにいつも助けられています。笑顔ま
ず、街の人たちも好意的で、がんばってねと言っ
てくれるんです。

実は、理事長がメール便配達の仕
事を、まわりから勧められたのは始
める1年も前。しかし、ずっとトラ

●茨城主管支店 高萩センター

面積193.65Km²/人口30,612人/世帯数11,889世帯

●NPO法人NPOウィッシュ

多機能型障害福祉サービス事業所“はっぴい・べる”

知的障がいなど、障がいがある13名が所属。
2011年2月メール便配達開始。現在メイトさんは5名。
その他、菓子製造・販売、袋製作、刺し子など。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

お問い合わせは……(公財)ヤマト福祉財団 メール便担当
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165
<http://www.yamato-fukushi.jp/>



薬局では、メール便を手渡ししています。「いつもちゃんと挨拶してくれますよ」とお店の人が話してくれました。

いしようとは考えなかったそうなのです。

「誤解していました。なにか専門的な仕事だと思って、無理だと思っていたんです」と鈴木理事長。トラブルが起こることも、不安だったと言います。しかし、きちんと話を聞いてみると、そうではないことがわかってきました。「機械の操作さえ分かれば、だれにでも出来る仕事だと知りました」

そんな鈴木理事長がメール便配達を始める決断をしたのには、もうひとつ理由がありました。ここはお菓子作りが中心だったので、手仕事が苦手な人に、別の仕事を見つけてあげたかったからです。その一人が、

泉純「さん。『責任感も能力もある彼に、仕事で自信をつけてあげたかったんです』（鈴木理事長）」

そうしてはつばい・べるで、メール便配達の仕事が始まりました。メイトさん2人1組に、職員が1人ついて配達しています。泉さんがレギュラー。あと4人が、日にちによって交互に変わっていきます。今は1日平均、15冊から20冊を配達するそうです。

初日の様子を鈴木理事長に聞くと、「思っていた以上に、よくできたんです」と笑顔。「うれしそうに『行ってきた!』と言って帰ってきましたよ」。

最近、泉さんは苦手なお菓子作りをしているときと、表情が違ってきたそうです。「メール便はオレの仕事だ、っていう自信がつぶりの顔つきになつてきました」（鈴木理事長）

サポートしている職員の大森志保さんも「泉さんは記憶力がいいので、地図をしっかりと覚えるんです。今も、場所のことは彼に聞くと、すぐに教えてくれます。頼りにしています」と言います。当

の泉さんも「得意な仕事ができよかった」



配達には2人1組で。コンビを組む鈴木英幸さん(右)を気遣って、兄のように教えてあげる泉さん。鈴木さんも、泉さんのリードで安心して、のびのびと配達をしています。2人で歩いている姿は、なんだかほのほの楽しそう。

た。仕事をしている実感が生まれました」とこたえてくれました。

こうして順調に進んでいるメール便配達ですが、実は彼らはこの短い間に、とんでもない体験をしていたのです。

地震で、地図が変わってしまった。

地震があったのは、ちょうど配達が終わって彼らが作業所に帰ったところでした。全員無事でしたが、その日からメール便はストップ。なんと再開できたのは、翌月の4月4日。20日以上の中断を余儀なくされたのです。

メール便配達を再開すると、思っ

てもみないことが起こりました。壊れて撤去された建物が出てきて、覚えた地図どおりにはいかなかったのです。変わってしまった住宅に、泉さんたちは戸惑います。

「地図と違ってしまつて、どうしていいのかわからなくなりました」（泉さん）

また、屋根瓦や塀が壊れている家が多く、道も危険でした。余震が長く続いていたので、できるだけ塀のそばから離れ、危険でない道を選んで歩いたりました。こうしたことは徐々に慣れていきましたが、震災の体験は、彼らにとつて忘れられない出来事になったようでした。

もっと配達地域を増やしたい。

ヤマト運輸 茨城主管支店メール便営業課 塚田芳課長は、彼らの仕事を信頼できると話します。「誤配がなく、メールを宝物のように扱ってくれます。他のメイトさんたちにも、彼らの仕事を覚えて欲しいぐらいです」

同じく茨城主管支店北茨城支店 関謙次支店長も、メール便配達の初日から、もう大丈夫だと感じたそうです。「最初は少し心配していましたが、本当にしつかりしてくれ

ています」。また、この事業について「社会に貢献する仕事に、自分も参加できることがうれしいです」と話します。

泉さんに、これからの目標を聞くと、こんな答えが。「もっと配達する地域を増やしていきたい」。これを聞いた鈴木理事長は、ちよつと驚いた様子。この仕事にそれほど前向きな気持ちが生まれていたとは、鈴木理事長も初めて知ったようです。

メール便配達を始めてまだ4ヶ月。しかし着実にその成果は、表れてきました。そしてなんとうれしいことに、泉さんのその願いは、それからすぐに叶うことになったのです。



前列右から／北茨城支店 関謙次支店長、はつばい・べる、鈴木今朝美理事長、西話勝輝さん、谷口康子さん、後列右から／茨城主管支店メール便営業課 塚田芳課長、泉純「さん、関純「さん、木本光祐さん、鈴木英幸さん、大森志保さん、ヤマト福祉財団 平井忠事務長

巧みなハンドリフトの操作で 荷さばきも縦横無尽。

株式会社あらたさま



一般就労への再チャレンジを目指し、スワン工舎でがんばってきた岩崎聡さん。その勤勉な仕事ぶりを評価してくれる企業と出会うことができ、仕事に精を出す毎日です。

左から大森マネージャー、岩崎聡さん、先輩の金子さん

■ヤマト自立センター スワン工舎新座 2006年より障がい者の就労支援に取り組み、就労に必要なスキルの習得から、就労先の開拓、そして就労後の定着サポートまで、一貫したプログラムで、自立支援の成果を上げています。

■株式会社あらた 化粧品・日用雑貨を主に扱う卸商社。ダイカ株式会社、伊藤伊株式会社、株式会社サンビックの3社が2002年に統合して誕生しました。東証2部に上場し全国に事業所を有しています。雇用率1.8%



岩崎聡さん

株式会社あらた 埼玉支店 (平成22年10月12日入社)

貯めた給料でお母さんと海外旅行に出かける予定でしたが、この震災でふいに。代わりに5月の連休は、出社して働くほど、今の仕事が大好きです。

肌の合う職場と出会い
毎日が充実。

四階建ての大型物流センターで、水を得た魚のようにフロアを往復しているのが、昨年までスワン工舎で就業訓練を積んでいた岩崎聡さんです。

常時約100人が注文に応じて商品のピッキングをしているフロアで、ハンドリフトを巧みに操り、折りたたみコンテナの運搬や商品の補充をしています。

「入ってきて、岩崎君は徐々に変わったと思います。」

いつもにこにこ、『おはようございます』と言って入ってくるし、声をかけても笑顔で会話できるしね。みんなに可愛がられています」と評するのは、統括マネージャーの大森孝之さんです。大人しいキャラクターでコミュニケーションが不得意だった岩崎さんですが、当初の表情の硬さは消え、今では

担当上司の金子さんと冗談を交え



株式会社あらた
埼玉支店 物流部 統括マネージャー
大森孝之さん

3カ月の研修を経て、岩崎さんを正式採用した理由をお訊きすると、「まず一生懸命だったこと。真面目で遅刻したり休んだりということがありませんでした。つぎに、人が多いフロアで支障なくハンドリフトを扱えたこと。そして、本人も職場の雰囲気合ったので、ここで働きたい」と口にしたので、十分だと思いました」

今では本人の希望もあって、休みだった土日祝にも出勤するようになった岩崎さん。この仕事を長く続けたいと真剣に願っています。



障害者就業・生活支援センター SWANが動き出しました

**就労後も、ずっと支援し
続けられる体制を**

就労移行支援事業所『スワン工舎新座』では、就労に必要な知識や技術を習得し、卒業後の就労先開拓、就労後の定着までを支援しています。設立以来（2006年）、実績を積み重ね6月現在での卒業生は62名になりました。しかし、そこには新たな悩みも…。

「スワン工舎新座は、自立支援法に基づく事業所ですので、就労後のサポートは基本的に半年となつていきます。私たちはこうした制約にとられず卒業生を支援し続けていますが、今後卒業生が増え続けていく中、どこまで満足なサポートを続けられるかが課題となっていました」と主任支援員の中村さんは話します。



クリーニング工舎、ベーカリー工舎を視察された細川厚生労働大臣。利用者さんとの懇談会も行いました。



主任支援員
中村 竜志さん

そこで、新たに『障害者就業・生活支援センター事業』の設立を目指しました。これは、障害者雇用促進法に基づく事業で、就労後のサポートについて期間的な制約はありません。一年、二年…さらに定年までもずっと支援することが可能です。

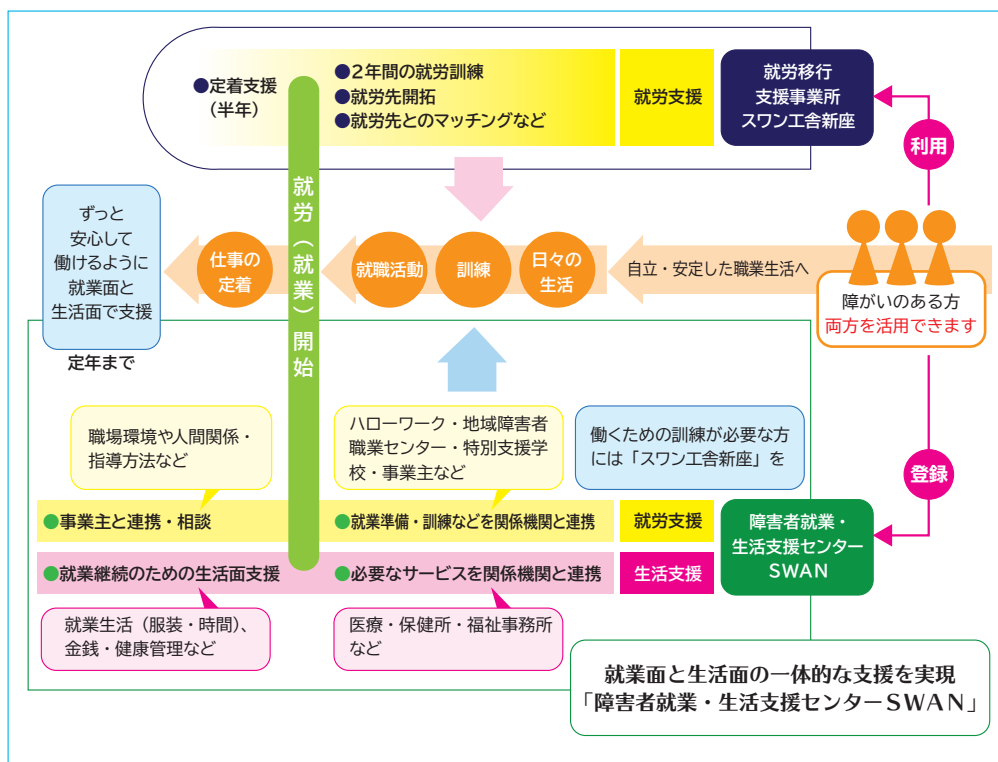
「就労までの支援」と 「就労後の永続的な支援」

障害者就業・生活支援センター『SWAN』は、スワン工舎と同じ建物内にありますが、独立したまったく別のものです。

「二つの事業は、基本的な役割が違います。スワン工舎は、就労移行支援として、利用者さんの就労訓練・就労先開拓など」就労するまでの支援を中心に行います。これに対し障害者就業・生活支援センター『SWAN』は、就業・生活支援として、登録者の就労先を決め、その後の職業生活

の支援を永続的に”行います。つまり”就業面だけではなく生活面

からも支援できる”という特長を持つているのです」（図参照）。



今年4月『障害者就業・生活支援センターSWAN』が、埼玉県新座市にある『ヤマト自立センタースワン工舎新座』と同じ建物の中に誕生しました。7月1日、細川律夫厚生労働大臣も視察に訪れました。

職業生活の支援では、例えば清潔な服装、時間の厳守、またお金の管理など、登録者が仕事を行う上で問題がないように生活面をサポートします。

二つの事業の連携と 地域との協力が鍵となる

「二つの事業が連携すれば、より充実したサポートが可能で、障害者就業・生活支援センターに大切なのは、登録された方、一人ひとりの要望と能力をしっかりと把握”することです。これがきちんとできなければ、最適な企業・仕事との出会い、そして長く働き続けられるための生活面の支援を行えません。また、就労先の企業と何でも相談し合える信頼関係を築き、登録者へのきめ細かなサポートを続けることも大事です。もちろん企業だけではなく、施設・学校、ハローワークなど地域のみならずとの連携も不可欠となります。」

より多くの方がいつまでも安心して働ける、そんな永続的サポートを目指して…。障害者就業・生活支援センター『SWAN』とスワン工舎の二人三脚は、はじまったばかりです。

2011年度

障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

仕事のしくみや組織を変えたと 考え方や行動が変わる

より幅広い参加者をむかえ各地の実践報告を行う場として開催するパワーアップフォーラム。昨年は、全国で1,300名を超える方々にご参加いただきました。

2年目となる本年は、仕事のしくみや組織を変えることで職員の考え方や利用者の意識が変わることに着目します。

また、高賃金を実現した人から時代の変化に対応するためにやっている工夫を学び、その工夫の原点となっている考え方や行動を、参加者の実践へつなげます。

障がい者のことをじっくりと考えられる一日としてプログラムを企画しました。みなさまのご参加をお待ちしています。

参加対象

福祉施設関係者、本人、ご家族ほか、障がい者の働く場づくりに関心のある方が対象です。

日程と会場

- 7月22日 エルガーラホール（福岡市中央区天神）
- 8月26日 広島国際会議場（広島市平和記念公園内）
- 9月 9日 UDXカンファレンス（東京 秋葉原UDX）
- 10月7日 札幌コンベンションセンター（北海道札幌市白石区）

▶各会場：10：00開始 17：00終了
▶参加費：無料 ▶定 員：各会場200名



財団ホームページからお申し込みください。

当日は、受講票が必要となります。

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

FAXでの申し込みもお受けします。事務局までまずお電話ください。

お問い合わせ

パワーアップフォーラム事務局（ヤマト福祉財団内）

電話 03-3248-0691

FAX 03-3542-5165

主催 公益財団法人ヤマト福祉財団

〒104-0061東京都中央区銀座2-12-15

協力 きょうされん

〒164-0011東京都中野区中央5-41-18・5F

電話 03-5385-2223

地元施設の商品展示即売会も開催いたします。

全ての会場において手話通訳およびPC要約筆記を実施いたします。

ヤマト福祉財団全国支部連絡先（ヤマト運輸（株）内）

支 部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	小原 守	TEL.022-374-8065
東京支部	小澤秀好	TEL.03-5564-3705
関東支部	塚本良輔	TEL.045-508-6106
関東支部東地区	平井 忠	TEL.043-259-7364
北信越支部	南雲真一	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL.052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	長船利宏	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3310
沖縄支部	佐渡山一郎	TEL.098-840-3605

本誌の無断転載・転用を禁じます。©公益財団法人ヤマト福祉財団

